

魚津市定例記者会見 9月

日時：平成27年9月1日（火） 午後1時30分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、
富山テレビ、チューリップテレビ、NICE TV、ラジオミュー
市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、産業建設部長、民生部長、
企画政策課長

1. 市長からの説明事項

(1) 新川森林組合で製作した行燈（木製ライトスタンド）の紹介

魚津産のスギを利用した行燈（ライトスタンド）を、新川森林組合と市内木工店の協働で試作した。木材利用のPRになればというねらいもある。

9月26～27日に山形県米沢市で秋まつりがあるが、魚津市と米沢市はともに上杉家とゆかりがあるということで交流があり、まつりの中で開催される「鷹山塾」に数年前から参加している。この行燈に上杉家の家紋を施した作品を、今年のまつりで贈呈する運びとなったので紹介する。

(2) 8月の振り返り

どの行事も天候に恵まれ、大きな日程変更もなく開催できたことを嬉しく思う。

①第46回じゃんとかい魚津まつり

たてもんまつりは、地元の曳き手不足を補うたてもんボランティアの協力があり、人数も年々増えている。せり込み蝶六街流しには各地区や企業などから3,000人を超える参加があった。魚津市と観光や防災などで交流している自治体を招待したところ、愛知県知立市、新潟県十日町市、南魚沼市、長野県飯山市、山形県米沢市など多くの自治体からご出席され、街流しを楽しんでいただいた。魚津市ほどの規模の自治体でまつり日程が3日間もあること、また街流しに市民が大勢参加しているということで、魚津市は元気があるとお褒めの言葉をいただいた。

②第29回全日本大学女子野球大会

初日は雨の影響で開始時間を遅らせたものの、その後は予定どおりに日程を終了できた。日体大が通算18回目の優勝を飾り、先輩の功績を引き継いでいきたいという強い意気込みを感じた。女子野球のレベルも年々上がっているし、桃山・天神山の両球場で観戦を楽しんでいただけたものと思っている。来年は第30回の記念大会でもあり、文科省の協力なども得ながら実行委員会と協議してさらに盛り上げたい。

(3) 9月市議会定例会

9月2日開会。一般会計の補正予算額は4億7,700万円余で、内訳の主なものは繰越金を財源とする積立金、マイナンバー関連の業務委託、地方創生事業、保育園の大規模改修など。財源が厳しいのは変わらないが、地方創生を含め市の活性化が大きな課題である。

(4) 魚津市防災行政無線のデジタル化整備の完了

防災の連絡体制の充実を図るため、昨年から整備を進めてきた。スピーカーを増設し、緊急時には市民の皆さんにいち早く伝達できるよう、スピーカーを9か所から38か所に増設した。運用は本日9月1日から。9月6日に行われる富山県総合防災訓練開始の放送が初めての放送になる予定。これまで、音声聞き取りにくいなどと苦情もあったが、改善されるものと期待している。

10月1日からは18時に「ふるさと」を1分間流す定時放送を実施予定。

2. 質疑応答での市からの説明内容

「防災関係」

《記者からの質問》

富山県総合防災訓練の開催にあたり、豪雨災害を経験した魚津市としての意気込みを。また、どのように災害対策をとっていくのか。

《回答》

今年の豪雨災害は大変な経験であったが、魚津市だけでなくその後広島の土砂災害をはじめ全国各地で災害が発生した。魚津市の場合に真夜中に発生したが、どんな時間帯に災害が起こっても対応できる体制作りが課題として浮かび上がった。被害のあった地区の皆さんからは、身近な問題として自らが災害対策を考えなくてはならないことを思い知らされた、との意見も聞いている。

各地区にはそれぞれの危険が潜んでいるので、自主防災組織をできるだけ充実させることが重要だ。まず地元で対応し、そこへ行政（消防）が入っていくという連携を進めていく必要がある。

《記者からの質問》

防災行政無線はどんな時に使うのか。

《回答》

基本的には、気象警報等の発令時など災害発生のおそれがある時に使い、避難関連情報なども流す。ただ、利用目的は防災のみではないので、点検もかねて定時放送をする。

《記者からの質問》

防災行政無線がこれまで9か所だったということでは、カバーできないエリアがあったということか。

《回答》

これまでは、主に津波対策を目的に沿岸部に設置されていた。昨今はいろんな災害があるので土砂災害発生しやすい山間部も含め増設した。これで市内全域をほぼカバーしたことになる。

《記者からの質問》

放送内容を確認する電話応答番号に、一度に多くの問い合わせが集中した場合どうなるのか。

《回答》

一度に4回線まで対応できる。

「夏場の観光客の入込について」

《質問》

この夏の観光客の入込状況はどうか。また、おもてなし直行便は試行期間の終了後どうするのか。

《回答》

きちんと把握はしていないが、季節によって観光客数も増減するので、新幹線開業から1年間ほど様子を見て開業効果を検証すべきではないかと思っている。

おもてなし直行便は今のところ1便あたりの乗車人数が2人未満なので、これが4～5人程度になればタクシー会社も利益がでるはず。ホテル宿泊者にPRしているので今後利用が増えるのでは。ただ、この形をずっと続けるかどうかは今のところ分からない。